

# 特別支援教育 理論研修会 終了報告

テーマ	子どもにとって遊びとは：大人にとっても大切なこと	
日時	平成27年 7月 29日 (水)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	平野直己氏 (北海道教育大学札幌校 准教授)	
参加者	68名	
研修会 の 様子		<p>北海道教育大学札幌校准教授の平野直己氏をお迎えし「子どもにとっての遊びとは：大人にとっても大切なこと」というテーマで、講演いただきました。障がい児部会や言語部門所属者だけでなく、他の部会の方の参加も多く、このテーマへの関心が高いことがわかりました。</p>
		<p>プレイセラピーという心理療法で子どもたちと出会うところからカウンセラーをはじめた平野氏の実践を通して、心の側から「遊ぶこと」を考える内容となりました。「子どもには(大人にとっても)遊ぶ環境が必要なものである」ということについて具体的なお話が進んでいきました。</p>
		<p>平野氏が出会った一人の少年の事例を通して、その臨床経過をたくさんのスライドで詳しく教えていただきました。遊びは自己表現だけでなく、他者に向けてのコミュニケーションの道具であるということが、よく理解できました。</p>
		<p>後半は遊びの危機についてのお話でした。管理慣れした子ども達、遊び心を知らない(忘れた)大人達によって、遊べない・遊ばせられない状況を何とかしたいとチャレンジした親子キャンプの様子を交えながら、新しい学びの形を教えていただきました。</p>
		<p>子どもが遊ぶ環境や遊ぶこと自体を、私たち大人が受容する(邪魔しない)ことが必要であること、そのためには大人が「もやもや」を抱える力をつけることが必要であること、など、大切なメッセージをたくさんいただきました。とても有意義な研修となりました。</p>